

会 議 録

会 議 名	令和６年度 第２回福島市男女共同参画審議会
開催日時	令和６年８月６日(火) 午後２時００分から午後３時４０分
開催場所	福島市男女共同参画センター 大会議室
出席委員	横田智史委員、小澤和枝委員、赤間幸子委員、佐藤久美子委員、 高橋丈晴委員、旗野礼子委員、樋口和枝委員、前川直哉委員、 元井貴子委員、山内圭介委員
欠席委員	赤間睦子委員、松原喜憲委員、横山卓也委員
議 題	審議事項 (１) 令和５年度実施状況及び令和６年度実施計画について (２) 審議会等における女性委員の参画状況について (３) 福島市男女共同参画に関する市民意識調査について (４) その他
市出席者	総務部長：矢吹淳一 総務部次長：本田博進 男女共同参画センター所長：木村佳子 男女共同参画センター主任：酒井俊宏

令和6年度 第2回福島市男女共同参画審議会 会議録

日 時：令和6年8月6日（火）午後2時～3時40分

場 所：福島市男女共同参画センター 大会議室

出席者：委員10名（別紙のとおり）

事務局：4名（別紙のとおり）

事務局（所長）	開会
総務部長	あいさつ
総務部次長	自己紹介
横田会長	あいさつ

○審議事項

（1）令和5年度実施状況及び令和6年度実施計画について

横田会長 事務局より説明願う

事務局（主任） 資料に基づき説明

【質疑応答】

前川委員 指標において、民間企業の女性管理職割合は達成できているが、市役所や学校の女性管理職の割合が低い。市役所と学校の女性管理職の割合はなぜ低いのか、増やすために何に取り組んでいるのか。

男性の育児休業取得率が上がってきているのは素晴らしいが、育児休業を取ればよいというものではない。育児休業を取得できる体制が整っているかもポイントになってくるので、平均取得日数と取得日数を踏まえたその効果なども、今後の指標として取り入れてほしい。

DV相談受付件数を見ると令和4年度が突出して多い印象を受ける。令和5年度に何か特別な政策を行ったのか。

事務局（主任）市役所内においては女性管理職の割合を伸ばすため、女性職員の職制への登用を積極的に進めるとともにその拡大を進めている。令和6年度は外部研修機関への派遣を行いながら幹部候補の育成を行うとともに、女性職員のキャリアアップ応援セミナーを係長職1年目の方を対象に行っている。

現ふくしまプランは令和7年度までの計画期間となっている。次回の審議会以降、次期計画策定に向けて詳細を審議することになるので、新たな育児休業取得の指標設定についても、その際に改めて検討していく。

DV相談受付件数が減少した詳細な理由は不明である。相談件数が減少したことで、DV件数が減ったとは一概に言えない。個々の家庭の事情や相談窓口が浸透してい

ないことも考えられる。

前川委員

管理職に登用しようとしてもご本人がなりたがらないのが、どの自治体でもある。小学校の先生は女性が多いが管理職になると男性の方が多くなる。よく言われているのは、女性の教員は低学年を持つことが多く、高学年までバランスよく持つ経験は男女で異なると、以前から指摘されている。このようなジェンダー研究の知見も積極的に使っていただき、どうすれば女性が管理職になりたいと思えるのか追及していただきたい。

DVについてホームページで啓発するのもよいと思うが、他にも効果的な方法を模索していただきたい。

旗野委員

キャリア形成は丁寧に行ってもらっていて、低学年を持つことが多かったが、いろんなこと経験させていただいた。

横田会長

教頭職は拘束時間が長くなると思うが、ワークライフバランスの点ではどうか。

旗野委員

この数年でだいぶ改善されたと感じている。福島市で働き方改革パッケージを打ち出したことが、地域の方と保護者の方にも浸透してきた。福島モデルを広げていただけると、全県でももう少し管理職の成り手が増えるのではないかと期待している。伴走支援もあり、それをみんなで勉強して広げているので、やはり教育長の力が大きいと感じている。

元井委員

民間企業の所定外労働時間数は 10 時間、福島市役所は 18 時間というのは、女性が活躍するのに少し大変になっているのではないかな。

年次有給休暇取得率と女性の育児休業率について、福島市役所の指標がないのは、女性の育児休業は取得できているため指標がなくてよいという感覚かもしれないが、年次有給休暇取得率については、市役所は有給休暇の取得がどこまで進んでいるかを指標で示してもらえると、そこから福島市役所内の女性管理職の伸び悩みの原因が少しわかるのではないかと感じた。

事務局（主任）

働き方改革によって市役所でも労働時間の改善の取り組みを進めている。市役所の所定外労働時間数が長いというご指摘を踏まえて、市役所における年次有給休暇取得率については、令和 8 年度からスタートする次期計画を策定する中で、新たな指標として取り入れていけるよう、審議会の皆様と改めて協議していきたい。

市役所内の女性の育児休業取得率については、ほぼ 100%取得できているため指標には載せておりません。

（２）審議会等における女性委員の参画状況について

横田会長

事務局より説明願う

事務局（主任）

資料に基づき説明

【質疑応答】

横田会長

女性参画率 38%は東北 6 県と比較すれば高いが、目標 40%の実現は難しいのではないかな。40%は最重要目標で、そこに至るまでの戦略はあるのか。

事務局（部長） 40%という目標は、国の目標にあわせて設定している。それに向けて、女性委員を増やしていくという基本的な考え方は、今の段階で十分浸透したと考えている。そのため、今後は委員の選出区分や、構成の考え方について検討していく必要がある。

小澤委員 推薦を依頼する会社の構成によっては、女性の選出が難しいことも考えられるが、選出の区分などで手をつけられる部分をもう少し改善することができれば、40%の目標を達成することができるのではないかと感じた。

前川委員 1つの審議会の中で、女性の参画率が3、4割を下回ると、女性の委員が女性を代表して話すことになってしまう。男性は男性の意見を聞きましょうとはならないのに、女性だけが女性の意見を聞きましょうとなるのはよくないという流れから、女性の参画率向上を目標としている。そのため、1つ1つの審議会の中で、女性委員の割合が低い審議会については、対応が必要であると思う。

事務局（部長） これまでは、女性の参画率40%の目標と併せて、女性委員のいない審議会をなくすことも目標としてきた。選出いただく団体に男性しかいないことから、達成が難しい審議会等もあったが、構成団体に趣旨を説明し理解していただく中で、目標の達成につなげてきた。そういった審議会へ、1人ではなく複数人の女性委員に参画いただくよう働きかけていく必要があると感じている。

（3）福島市男女共同参画に関する市民意識調査について

横田会長 事務局より説明願う

事務局（主任） 資料に基づき説明

【質疑応答】

前川委員 問19について、女性が仕事の内容や待遇面において差別されていると感じる場合の選択肢しかないように感じる。労働時間に差を感じるや育児休業が取得できないなど、男性が仕事の内容や待遇面において差別されていると感じる場合の選択肢をいれてもよいと思う。

事務局（主任） 労働時間や育児休業などの選択肢について事務局で検討する。

元井委員 問16と20について、質問内容が類似しているように感じる。回答者の負担を考えると同じような質問は1つにまとめた方がよいと思う。

事務局（主任） 問16は国の、問20は県の調査の内容に合わせて作成しており、前回の意識調査同様に今回も進めていこうと考えていた。ただ、内容が類似しているとのお話もあり、まとめることが可能かなど改めて事務局で確認する。

赤間委員 地域活動のみ取り組んでいる方にとっては、問16は地域活動の視点での質問でもあるため回答できると思うが、問20の働き続けるために必要なことという質問は回答することが難しいと思う。

事務局（主任） いただいたご意見をふまえながら、設問についてどうするか検討していく。

高橋委員 設問数が結構多いので、回答する側を考えた場合、この調査は回答するにあたって、どのくらいかかるのか。例えば20分くらいかかりますなど注釈を入れた方が、

回答者は回答しやすいと思う。

事務局（主任） 他課で実施している同様の調査等の内容も確認しながら、回答に要する時間に関する注釈を記載するか検討していく

（４）その他

①福島市パートナーシップ・ファミリーシップ制度について

横田会長 事務局より説明願う

事務局（主任） 資料に基づき説明

【質疑応答】

小澤委員 パートナーシップ・ファミリーシップ制度の宣誓等の対応は、男女共同参画センター２階のカウンターで対応しているのか。

事務局（主任） カウンターへは会議室の利用者等が来所されることもあるため、別室を用意し、そこで手続きを行っている。

事務局（所長） 閉会